

日展ニュース

No. 184

<https://www.nitten.or.jp/>

令和5年6月30日発行

編集兼発行人 神戸峰男

第87回 定時総会



沼 岩倉 寿



第87回定時総会報告

日時 令和五年五月二十九日
午後二時

場所 国立新美術館 講堂

出席 四八三名（含議決権行使書）

宮田理事長が議長となり、左記の事項について報告、説明し承認可決した。

- (一) 不動産の売却報告について
- (二) 令和四年度事業報告承認について
- (三) 令和四年度決算承認について
- (四) 令和五年度事業計画書報告について
- (五) 令和五年度収支予算書等報告について
- (六) 定款の一部変更承認について
- (七) 会員人事報告について

その他の報告事項

- 1 令和五年度称号授与予定者報告について
- 2 第九回日展巡回展開催報告について他

会員新人事

新会員

令和五年三月二十三日開催の理事会において、左記二十三名が選出された。

令和五年四月一日付

日本画

久米 伴香 仁志出龍司
新川 美湖

洋画

茅野 吉孝 佐渡 一清
曾 劍雄 橋本 一貫
松本 貴子

彫刻

伊庭 照実 植田 努
紺谷 武 東 誠

工芸美術

兼先 恵子 川口 満
佐々木眞澄 西本 直文
早瀬 郁恵 本間 秀昭
山本由紀子

書

岩田 海道 平形 精逸
深瀬 裕之 吉見 靖子

委員会委員新人事

令和五年三月二十三日開催の理事会において、左記委員会委員が選考された。

諮問委員会

外部委員

※職名・肩書は令和五年三月現在

秋元 雄史（練馬区立美術館長）
梅崎 壽（公益財団法人日本ナショナル

トラスト代表理事・会長）

黒川 廣子（東京藝術大学美術館館長）
島谷 弘幸（九州国立博物館長）
室伏きみ子（お茶の水女子大学名誉教授）

内部委員

日本画

米倉 正美

洋画

寺久保文宣

彫刻

勝野 眞言

工芸美術

相武 常雄

書

井上 清雅

令和五年五月十日開催の理事会において、左記委員会委員が選考された。

日展ニュース委員会

日本画

亀山 祐介 西田 真人

洋画

浅見 文紀 前原 喜好

彫刻

野原 昌代 堀内 秀雄

工芸美術

上原 利丸 村田 好謙

書

歳森 芳樹 福光 幽石

出版委員会

日本画

大豊 世紀 山下 保子

洋画

小川 満章 平野 行雄

彫刻

谷口 淳一 堀内 有子

工芸美術

友定 聖雄 古瀬 政弘

書

植松 龍祥 深瀬 裕之

広報委員会

日本画

長谷川喜久 間瀬 静江

洋画

石田 宗之 大友 義博

彫刻

寺山 三佳 中原 篤徳

工芸美術

曾根 洋司 林 香君

書

井上 清雅 吉澤 鐵之

新準会員

令和五年三月二十三日開催の理事会において、左記十九名が選出された。

令和五年四月一日付

第一科 日本画（四名）

猪熊 佳子 棚町 宜弘
村山 春菜 山田 まほ

第二科 洋画（四名）

春日 裕次 小林 理恵
齋藤 均 二宮 弘一

第三科 彫刻（二名）

境野 里香 丸田多賀美

第四科 工芸美術（三名）

小畠 泰明 西 緑
山崎 豊

第五科 書（六名）

岩井 秀樹 大田 鵬雨
鹿倉 碩齋 西村 大輔
真鍋 井蛙 松村 博峰

新会友

令和五年三月二十三日開催の理事会において、左記一〇一名が選出された。

令和五年四月一日付

第一科 日本画（八名）

青鹿 未奈 稲葉 未来
及川 美沙 岡本 文子
神谷 恒行 久原 朝満
竹内 仁志 中村 七海

第二科 洋画（二十一名）

上野 留美 恵木 昌之
小山田光太郎 大地 千春
岡田 忠司 川田 久世
川村寿一郎 菊池 祥裕
小林 正二 鈴木 喜博
高井 将行 徳田 明子
西島 正人 西田富貴子
平井 芳夫 福田 次子
松本 美子 水野 洋子
柳 辰太郎 吉成 浩昭
米村美真代

第三科 彫刻（二名）

酒井 華 仲 正彦

第四科 工芸美術（二十名）

井澤 洋子 伊藤 千晶
大須賀えみ子 金子 章
川原 圭二 菊地 隆

第五科 書（五十名）

小林 暁子 齋藤 麻里
S U I T 寺本沙香江
中市後達夫 中島 京子
中林 雅代 二宮 祐子
羽二生隆宏 古澤 順子
古根 香 細川 令子
松永 好昭 光久 弘子

青柳 祥風 雨宮 春聲
新井 昭江 荒木 廣山
伊地知紀子 石原 清至
上原 梅花 海野 博久
大橋 覚 大橋 智子
太田 春雲 岡村 幸苑
荻田 光山 香月 久遠
各務 珠実 上小倉積山
上山 天遂 喜入 彩光
北田 翠芳 黒田 昌吾
小泉 興起 神山 智花
佐藤 青園 坂井麻菜美
志岐 敏光 杉本 由美
田邊 栖鳳 高田 直子
高橋 佑太 玉井 朝子
塚原 楊華 中村 とく
西田 健 野瀬 真理
野中 穎僊 野村 清涼
能美 翠桂 畠山 素園
平岡 貴子 深田 邦明
福 桃苑 藤高 霧島
松倉 映舟 水口 昌紀
水野 佑華 宮崎 弘水



山肩真智子
吉澤 衡石

山口 蓉舫
吉田 博

NITTEN

日展

116

since 1987

第10回 日本美術展覧会

公募

日本画	洋画	彫刻	工芸美術	書
日本人入賞 10.19(日) 20(日) 外国人入賞 10.20(日)	日本人入賞 10.13(日) 14(日) 外国人入賞 10.15(日)	日本人入賞 10.21(日) 22(日) 外国人入賞 10.22(日)	日本人入賞 10.13(日) 14(日) 外国人入賞 10.15(日)	日本人入賞 10.10(日) 外国人入賞 10.10(日) 11(日)

第10回 日本美術展覧会

2023年 11月3日(金) ~ 26日(日) 火曜日休館

国立新美術館

The Japan Fine Arts Exhibition



第10回 日本美術展覧会
 会場 国立新美術館
 東京都港区六本木7-22-2
 会期 令和5年11月3日(金) ~ 11月26日(日)
 休館日 毎週火曜日
 観覧時間 午前10時 ~ 午後6時 (入場は午後5時30分まで)
 主催 公益社団法人 日展

※ 最新の開催情報は「日展ウェブサイト」<https://nitten.or.jp/>で確認下さい。

本年度の開催要綱が出来上がりました。
 ご応募の流れ

応募に必要な
 資料の請求
 (切手を郵送)

日展事務局より
 開催要綱・出品
 申込書等を郵送

作品の搬入

封筒に左記のものを同封の上、日展事務局宛にご郵送ください。

・部数に応じた送料分の切手
・必要部数、送付先の住所、氏名を明記した紙

《送付先》

〒110-0002 東京都台東区上野桜木2-4-1「日展事務局 出品申込書係」宛
 送料…1部 2部 140円、3部 210円、4部 250円
 6部以上ご希望の方は事務局までお問合せください。TEL 03(3821)0453

※返信用封筒は不要です。

※速達をご希望の方は、速達希望と明記の上

送料+速達料金(260円)の切手をあわせてお送りください。

切手が事務局に到着次第、左記の書類を郵送いたします。

・開催要綱
・出品申込書
・鑑査結果通知用の封筒

《個人搬入の方》

各部門で決められた搬入日および搬入場所(開催要綱参照)に、
 出品申込書・鑑査結果通知用の封筒・出品手数料(12,000円)
 を添えて、作品を搬入してください。

《搬入業者をご利用の方》

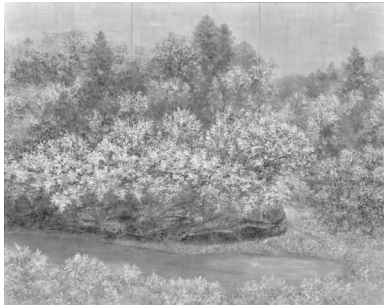
各搬入業者の所定の手続きにしたがい、作品の搬入を依頼してく
 ださい。業者ごとに締切期日等が異なる場合がありますので、詳
 細は直接各社にお問い合わせてください。

(宅配便での受付はしていません。)

日展会員、準会員、会友の方々の出品票発送予定

○会員、準会員、前年度特選受賞者…9月初旬頃

○会友…8月中旬から下旬頃



《清風》 久米伴香

支えて下さった方々への心からの感謝と共に、先生方が守って来られた伝統の重みを深く感じております。自然の中に身を置き、自然が持つ力強さ、優しさ、美しさを少しでも表現する事が出来るよう、精進して参ります。

日本画 久米伴香

作品図版
第9回日展出品作
2022 (令和4年)



《過ぎゆく季節》 新川美湖

2度目の無鑑査となって以降、私は日本画科では珍しくなった墨による制作研究を始めました。

さらなる深い探求や考察・経験が必要だと身に染みて感じておりますので、これからご指導をよろしくお願いいたします。

日本画 新川美湖

ご挨拶申し上げます

新会員より



《月夜漣》 仁志出龍司

金沢美術工芸大学3年生の時の初入選以来、一度も休む事無く日展に出品して参りました。近年は行雲流水で、晴耕雨読ならぬ晴耕雨描の感であります。以降もよろしくお願いいたします。

日本画 仁志出龍司

この度は日展会員にご承認頂き、喜びと共に改めて身の引き締まる思いです。

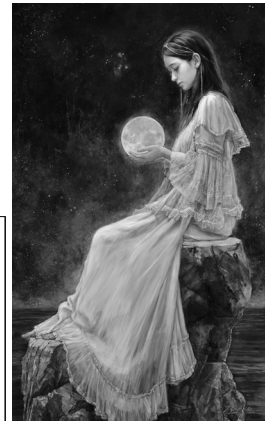
更に研鑽を積み、充実した作品づくりに一層の精進をして参る所存です。

洋画 茅野吉孝

風の時代。日展会員に推挙いただき、諸先輩方、友と家族、そして志を支えてくれたこの現し身に心からの感謝を。

今後人道にのっとり様々な表現方法に挑戦し、作家として更なる深化を目指したい。

洋画 松本貴子



《REBIRTH、月の仔》
松本貴子



《陽光》 茅野吉孝

この度新たに会員となりました。今まで以上に気を引き締めて毎日研鑽を積み、日展会員として恥じないよう努力したいと思います。また、後進の育成にも力を入れてまいります。今後共ご指導のほどよろしくお願いいたします。

洋画 橋本一貫



《時》 橋本一貫



《潮》 佐渡一清

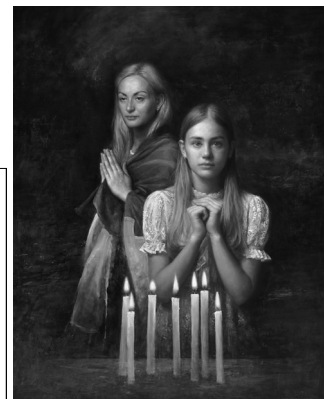
この度、日展会員にご推挙いただき、責任ある立場となり身の引き締まる思いをしています。諸先輩方を範とし、これからの創作活動に精進しなければならないと思いを新たにしています。

洋画 佐渡一清

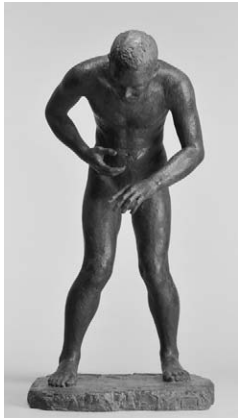
日本在住の中国人画家として、20数年にわたり日展に出品し続け、画家たちとの交流に感謝しています。

日展が、美術の発展や教育の推進において果たす役割は、世界でも類を見ない素晴らしいものです！今後もより良い作品を制作するために努力していきたいと思ひます。

洋画 曾 劍雄



《祈り》 曾 劍雄



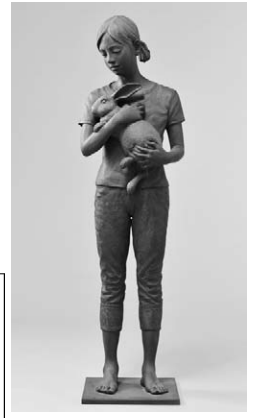
《堪》 伊庭照実

会員としての承認を受け、今まで以上に襟を正して彫刻の制作に取り組む覚悟でいます。会場で鑑賞者が足を止めてじっくりと見てくださるような内容のある作品をつくれるように努力したいと思います。

彫刻 伊庭照実

会員となり嬉しく思うのと同時に強く責任を感じております。自分の強い想いや表現を一番大切にしてきましたが、これからは見ていただく方の心に留まり、何かを感じてもらえるような作品ができたらと思います。

彫刻 植田 努



《ウサギを抱く少女》
植田 努



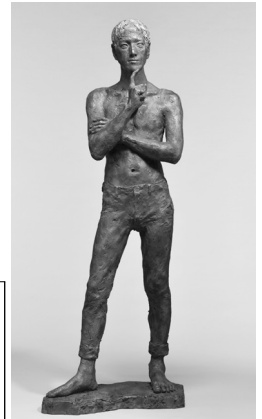
《MACBETH》
紺谷 武

これからも具象彫刻の魅力を探求し、自身の創作活動に反映させていきたいと心より思いつつ、日展の更なる発展の一助となるよう精進し、新しい試みに挑戦していきたいと思っています。

彫刻 紺谷 武

日展の会員として承認された事に、この上ない喜びと共に責任の重さに身の引き締まる思いであります。甚だ微力ではありますが、自己表現を追求することで、より多くの人々に具象彫刻の魅力を伝えていきたいと思っています。

彫刻 東 誠



《stop and think》
東 誠



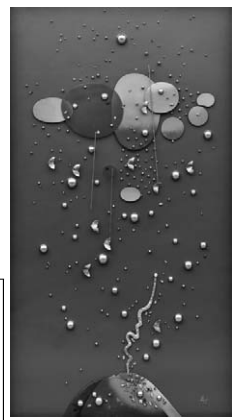
《「悔恨の恋」
—源氏物語・若菜下の帖—》
兼先恵子

歳を重ねるごとに制作に取り組む自身の発想や着眼点に変化する事を楽しんでいます。
折々に心の琴線に触れる出会いを大切に、自然のゆらぎや空気感を表現へと昇華できるように視野を広げて作品と組みたいと思っています。

工芸美術 兼先恵子

この度日展会員推挙を受けることができましたことは、多くの皆様のご支援の賜物でございます。これからも会員として、互いの繋がりの中で刺激を受け、芸術への意欲と夢に希望をかけていく所存です。

工芸美術 佐々木眞澄

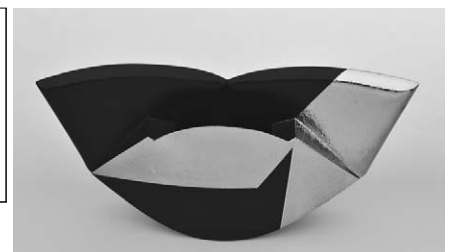


《刻—光彩（桜島）》
佐々木眞澄

学生時代より日展で活躍されている先生方に憧れ、背中を追いかけました。

これからは、会員となった自分が、次世代の方々の目標とされる存在になれるよう、挑戦を続け日々精進して参りたいと思います。

工芸美術 西本直文



《蒼生「翔」》 西本直文



《残像一波》 本間秀昭

この度は、日展会員の委嘱を賜り、誠に栄誉なことと、喜びに堪えません。これからも、竹を素材として独自の表現を追求し、制作に精進して参りたいと思います。

工芸美術 本間秀昭



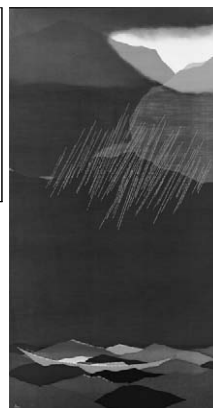
《記憶・浮遊・創造》
川口 満

日展の一員として新たな一步を踏み出すこととなり、喜びとともに身の引き締まる思いです。会員にご承認いただきまして感謝申し上げます。今後も素材と向き合い、自身の表現を探究して制作に励んでまいります。

工芸美術 早瀬郁恵

この度、会員に加えて頂き身が引き締まる思いです。先人たちの熱い想いを受け、長い歴史の一部となれるように努力してまいります。人は記憶で形成され、作品は記憶の結晶ではないかと考え新しい形に挑戦を続けていきたいと思ひます。

工芸美術 川口 満



《月下、君をのせて》
早瀬郁恵

前進あるのみと一意専心の思いで、半世紀近く制作してきました。会員になった今、尚一層、日々精進して、土の魅力を最大限に表現出来るようチャレンジしていきたいと思っています。

工芸美術 山本由紀子



《刻まれた沈黙》 山本由紀子



《傳玄詩》 平形精逸

古典に立脚しながら現代の書を創出すること、すなわち篆書の構築性に流動性をどう調和させるか。会員の名に恥じない作品を発表することの重責に負けないよう、気宇壮大な境地を心掛けなければと自戒しています。

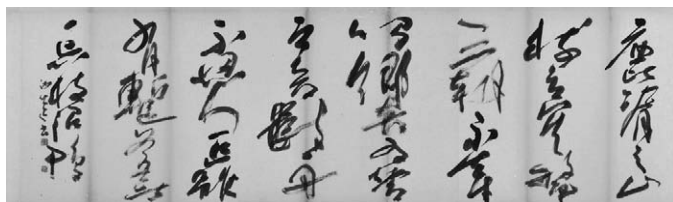
書 平形精逸

日展会員という立場の重みを考えました時、改めて自らの不勉強を痛感しております。自身の足らざるところを再び学び直すとともに、伝統の書をあまねく広め、正しく伝承することに微力を傾けたいと思っております。

書 深瀬裕之



《大和》 深瀬裕之



《響》 岩田海道

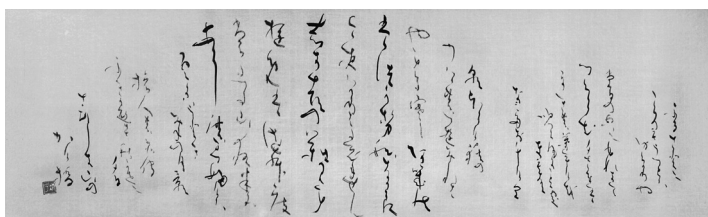
日展に入選出来るような作家になりたいと、故郷を離れて半世紀以上過ぎました。20年を経て初入選し、その感動は今でも忘れません。この度会員となり、その重さを感じています。これからは、書を志す若者の育成に努力したいと思います。

書 岩田海道

この度、日展会員という身に余る立場に、ご推挙いただき、光栄に思いますと同時に、身の引き締まる思いです。

ここまで、育てていただいた諸先輩方をはじめ、皆様に感謝しつつ、誠心誠意精進をして参りたいと思っております。

書 吉見靖子



《旅人》 吉見靖子

東海岸の一粒の真珠

(洋画) 吉田 定



私は国宝臼杵石仏(摩崖仏)で知られ、小説家野上弥生子が母校の小学校に送った言葉から「東海岸の一粒の真珠」と例えられた大分県の臼杵市で制作を続けております。大友宗麟により築かれた城下の町の白壁やグレーの瓦などに魅せられ、私の作品も白い板壁をモチーフにして描いています。

日展の初入選作は漆喰壁を削るようなマチエールで描いた木目模様の「白い板壁」の作品でした。この町の歴史のあるまちなみと豊富な自然の中で過去の原風景を重ね合わせて描けることや温かい人とのつながりに支えられながら制作できることに感謝しています。

刺激の少ない田舎から日展に出品し続けることはハンディキャップがありますが、反面集中力が増してくることを前向きに考え、作品に向かっています。

今後新しいモチーフを模索し、日展に出品できる喜びを感じながら挑戦して参ります。

(大分県在住)

彫刻制作への思い

—私の日展への挑戦と学び—

(彫刻) 志村 広子

自然に囲まれた群馬県高崎市で暮らしています。制作に自分自身の思いを注いでおり、四季折々の景色や風景は想像力を広げ、刺激を与えてくれます。

日展は私にとって大切な場であり、出品することは大きな目標です。会場に入ると、先生方の美しく素晴らしい作品に圧倒されます。その中に作品を

展示していただくことで、自分自身の表現力や技術を振り返ることができます。会場では、作業場で気づかなかった新たな発見があり、次の作品制作に繋がっていきます。また、先生方や来場者からのご指導やご感想も私の制作にとって欠かせない糧となっています。

日展は、日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書の表現方法が融合された場であり、作品から伝わるエネルギーや感情を会場で間近に味わうことができます。学びが詰まった貴重な機会に、感謝の気持ちで一杯です。これからも制作に精進し、自分らしい作品を作りたいと思います。(群馬県在住)



伝統に感謝して

(書) 石原 裕子

小学一年の秋、父の作品を観に出掛けたことが日展との初の出会いで、以前の展覧会とは違う空気が漂っていたように記憶しています。大学では漢字の書を中心に学び、卒業後は地元埼玉県の公立高校の書道教諭となり指導に当たっております。教職に就いてから仮名の魅力に引き込まれ暫く模索の日々を過ご



各地からの

制作と人と繋がりと

(日本画) 若 崎 文 絵

私にとって、何事も一步を踏み出すのは勇気がいるもの。一步進めば自分に変化をもたらしてくれるだろうと理解していても、恐れがその一步を躊躇させます。

学生時代は身近に多くの先輩がいて、その存在に引っ張られていました。都会は数多くの表現を目にする機会があり、大いに刺激を得ていました。地元富山で制作する今は、自分から動き学びを得る形に変わっていききました。その中で生まれた人々との出会いが、今の制作を支えてくれています。縁のできた方々との繋がりが、日展という大きな制作に挑む勇氣になっています。



人の縁は得難いもの。今ある繋がりを大切に、踏み出す一步を進めて成長していきたいです。地方は環境が充実しているとは言いがたいけれど、大切な人々との繋がりがありません。コロナ禍での三年間、画材や搬入、展覧会において多くの方々の努力と気遣いを感じ、気持ちを支えて頂いたと感じます。感謝を持って制作に挑んでいこうと思います。

(富山県在住)

出品者の思い

変わるものと変わらないもの

(工芸美術) 近 藤 賢



私が初めて日展に入選したのは、大学に在学中の二十一歳の時でした。当時の私はただガムシヤラに自分の思いを表現することに必死でした。そこが評価いただいたと思い、喜び勇んで会場で自分の作品を見た時、あまりにも稚拙に感じ、いたたまれない気持ちになりました。数多くの秀作に囲まれ、不甲斐ない思いで赤面したのを今でも覚えています。

それ以来、制作における第一歩として「人に見せて恥ずかしくないもの」「そして「自分に恥ずかしくないもの」を、と力を注いでまいりました。当然ですが、すぐには納得のいく作品にはなりませんでしたが、しだいに自身の作品を、目を背けることなく、会場でも見られるようになってきました。

私は現在、福島県いわき市で制作しています。焼き物の産地でもあった地元浪江町の工房が震災に遭い、事故の影響で作陶が続けられなくなりました。自分の意志で、あるいは意に反して、その拠点も変わってきました。これからも自分の納得する作品を皆様にご覧いただきたいと願っています。

(福島県在住)

しましたが、三十六歳の時、現在の師に巡り合い、日展への挑戦が始まりました。
毎日何気なく使っている文字を千年も昔の人達が美しく表現していたことへの感動、日本の四季の美しさや情景、古筆と対話を続け文字文化の伝統を継承することも自分の役割と認識しています。
伝統と格式の日展へ挑戦させて頂くことへの喜びと感謝の気持ちを忘れず、常に感性を磨き続け「清らで格調高き香り漂う書」を目指し、今後も謙虚な姿勢で書と向き合っていきたいと思っています。

(埼玉県在住)

作家人生—私の仕事—

こだわりのほろ苦い思い出

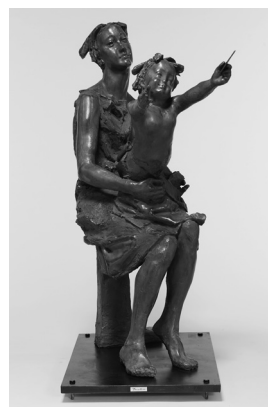
第三科彫刻 理事 宮 瀬 富 之



《はんなりと石庭に》
(平成17年 第37回日展出品作)
内閣総理大臣賞



《巨大な輝き》
平成5年10月
琵琶湖疏水記念館対岸にあるモニュメント



《受け取ってほしい
この手紙を》
(平成21年 第41回日展出品作)



《けど、ようやったやないか。》
(平成5年 第25回日展出品作)



画家の長男として京都に生まれました。幼少期から父の画室で毎日絵具溶きを手伝い、アトリエの隅に並ぶ明治・大正・昭和の美術本を飽きることなく眺め感動を覚える日々でした。彫刻では中でも石井鶴三、国方林三、堀進二氏の作品が素晴らしく目が釘付けになりました。この時初めて彫刻家を志したいと思ったのです。

さて年月を経て、その道を教えてくれるところは知る限り美術大学があるのみで国公立では三大学だけでしたので、倍率が高く志願者で溢れていました。そして入学には石膏デッサンの実技は不可欠でした。高三の時、独立美術協会の先生が人体デッサン・石膏デッサンを指導されていた研究所で学び、その後、浅井忠氏を中心となり開設した関西美術院（梅原龍三郎、安井曾太郎氏など輩出した）に通いました。流石に四年間不合格が続けると絶望感と憔悴の繰り返しで次の受験の一年が長く感じ辛かったです。昭和三十八年東京藝術大学で夏季デッサン講習会があり藁をも掴む思いで参加しました。小磯良平、山口薫両教授の指導とあつてか、多くの参加者で所狭しと満員でした。終了後総評があり、多くの中から数点が選ばれ、私のデッサンも評価の対象となりました。小磯先生が一枚ずつ丁寧に講評され、それは何よりも自信に繋がる何かを得た思いでした。その年、金沢美術工芸大学に入学出来ました。

具象彫刻を六十年続けてきて、デッサンは大切だと思っています。しかし作品に使用するとなると、厄介なことにごく一部にしか使わないように思います。それよりも、自然観察からくる内面性の想起、哲学的な、デッサンでない世界観とデッサンを組み合わせなくては作品として良くはならないのではないのでしょうか。デッサンばかり進行させていくと説明ばかりが多くなってしまう形はありますが、作品の奥行とか趣とかが本質に迫ってこないと思うのです。先に述べましたが、つまりデッサンは作品のごく一部であつて、よい作品作りを発揮させる動機となるもの、私はそう思います。



日展初入選作品他
吉賀大眉記念館にて



《萩釉広口陶壺「曜'99・海」》
(平成11年 第31回日展出品作)
日本芸術院賞 日本芸術院 蔵



《萩釉陶壺「生動・2022」》
(令和4年 第9回日展出品作)



《萩釉陶壺「生・2020」》
(令和2年 改組 新 第7回日展出品作)



環境に育まれて

第四科工芸美術 理事 吉賀 將夫

私の陶芸作家人生の始まりはいつだったのだろうか。

幼いころの環境は、焼きもののつくりの職人たちが働いている場でした。足で蹴ってロクロを回し、上に置いた粘土を、手のひらで引上げ、魔法のように数多く形を作っていくのが不思議でした。小学生の頃に私も作ってみようと思い、ロクロを回して挑戦しました。私の人生で、物作りに夢中になった初めての経験です。

進路を考える年頃になり、家業のこともあり、作陶も好きなので、東京藝術大学への進学を考えました。木炭デッサンなど初めて知った次第で、苦しい二年の浪人時代でしたが、いい人生経験になりました。田舎から出て八年間、東京の学生生活は創作を模索した時でした。藝大修了後は、直ぐ萩に帰り、父と同じ仕事場で陶芸創作活動に励み、地元大学の教員を務めました。教育学部でしたが、すぐれた作品を制作すれば、教育にも良い効果が表れると信じ、定年まで続けました。

個展発表で制作を続けようかとも思いましたが、日展に出品して批評を受けるのも、広い道が開けるのではないかと思い、出品を始めました。休む事なく、定期的に作品を制作し発表することが、自己研鑽のためになることを身に染みて知ることとなり、厳しい環境で育てて頂き、今に至っています。

萩は海がありますので、幼い時から水泳や磯で潜ってサザエ、タコなどを取ったりするのが夏の楽しみでした。水中メガネを使った素潜りですが、水中の岩礁はとても美しく神秘的な世界で、いまでも強く心に残っています。

田舎に定住している私にとりまして、まわりの自然はすべての源であり、尽きぬ発見があります。少しでも自然の生命力、活力に負けないような存在感のある作品が出来たらと思います。制作しています。

教えて、作家さん！
わくわくワークショップ
「手紙を書こう！」

「わくわくワークショップ『手紙を書こう！』という、小・中・高校生から気に入った作品の感想や質問を集める企画を実施しました。前は小中学生を中心に、今回は高校生にスポットをあてて、お届けします。

この作品を見たとき、つい見入ってしまいました。まず、色合い。色合いがとても好きです。私は青色が好きなのですが、この作品の青色は彩度や明度が全て違って、それらが上手く配置され、それぞれの青色の良さが引き出されていました。また、金箔の貼られ方が境界線と光が表わされているようで、とても目立っていました。ずっと見ていたい。そう思えるような作品でした。

素敵な作品をありがとうございました！この作品を、会場の最初の部屋で見られただけで、「今日来てよかったな。」と思えました。私は初めて日展に行ったのですが、「まさかこんなにも良い作品があるとは…！」という感じでした。また、城野先生の作品が見られる日を楽しみにしています！！

雛子さん 16歳

私の作品をしっかり分析して適確なご意見を頂き、日展に来てよかったと思ってもらえたなんて感激です。若く新鮮な感覚で作品をとらえて頂け嬉しいです。これからも沢山の本物に触れ益々審美眼を育てていって欲しいと思います。高校生ですから美術の道に進まれるのでしょうか？いつか制作をみせて頂ける日が来るのかもしれませんがね。美術の道に進まれるのでなくても文化や美術に興味を持ち続け、今の感性を大切に有意義な人生を歩まれますように。また日展をご鑑賞下さいませ。作品でお目にかかりましょう！

城野奈英子



Get Running!



刻廻る

服や布の質感が細かくリアルに再現されていて魅力的でした。彫刻などの立体でこの表現を出すのは難しそうだったのですごくと思いました！布の細かいタッチがとても好きです。また髪の毛や布のフワッとした表現がやさしくて好きでした！

私も彫刻関係にいきたいと思っているのですがこの作品の質感はどうやって出したのか疑問に思いました。また作品づくりをしている時に心がけている事があれば教えていただけるとうれしいです！今回はすてきな作品をありがとうございました！

絵美子さん15歳

私自身こだわったポイントは布の質感だったので、このような感想を頂けてとても嬉しかったです!! 作品の質感を表現する為に実際に自分で服を着て、他の人に写真を沢山撮って貰い、その画像を見ながら制作していました。あとは自分でその服を着て、鏡で観察しながら作ったりもしました。他にも着色する際にアクリル絵の具とタルクを混ぜた物を塗って布のマットな質感を表現しました!!制作中はとにかく楽しみながらすることを心がけています!! 絵美子さんが彫刻の道に進む事をとても楽しみにしています!! 健康に気をつけてお過ごし下さい。応援しています!!

酒井 華



ルームウェア

作品全体の色味がとても素敵です！過去を振り返る自分、未来へ一歩踏み出す自分。けど服が違う？左右の二人が対比されつつ完全に二極化されておらず、色彩づかいや構図から考えさせられることが多かったです。自分も絵を学んでいるのでとても勉強になりました。

空弥さん16歳

芸術関係の高校で勉強されているんですね。絵づくりに関する具体的なお感想から、真摯に制作をされている様子が伝わってきました。実は私も美術工芸コース出身なんですよ。「対比されつつ完全に二極化されていない」とご指摘くださった通り、作品づくりでは「コントラスト(対比)」を強く意識しています。特に今回はより新鮮な印象になるよう色も構図も破綻するギリギリの所を攻めてみました。平素の私は目立つタイプではありませんが、画面の中なら何処までも自由に、思い切り叫ぶこともできます。制作はストレスもかかりますが、喜びも大きいですね。きっと空弥さんもそう感じられていることでしょう。これからも日展をはじめ、様々な展覧会、場所、そして様々なカタチでアートとの出会いを重ねられ、充実した学生生活を送られることを心よりお祈りしています。

関野智子

「夏休み一日ART体験」

第18回『Oneday Art』

制作の体験だけじゃない、作家を、展覧会を体験できる『Oneday Art』。昨年、コロナ禍で延期を余儀なくされましたが、再び子供たちの挑戦の夏が来ました。

学校ではできないようなジャンルも、日展作家が丁寧に指導します。

(保護者の皆様へ)

「作品をつくる」体験をし、作品や作家とのかかわりを通して、多様な世界観を学んでほしい。日展の芸術文化普及活動です。

主催

公益社団法人 日展

開催日程

7月22日(土)彫刻
7月29日(土)工芸美術(染)
7月30日(日)日本画
8月4日(金)書
8月5日(土)洋画

※時間は各回で異なります。
☆作品展は、8月18日～22日
日展会館で開催します。

参加者募集!

場所

日展会館
東京都台東区上野桜木2-4-1

参加費(※教材費等)

1名 二、五〇〇円

指導作家・内容

※詳細はHPでご覧になれます

応募方法

★ハガキ、FAX、メールで、住所・氏名・電話番号・学年・希望日(必ず第2希望まで)を明記。

★子供が2名以上で参加希望の場合は、参加者全員の住所・氏名・電話番号・学年・希望日を記入

★保護者が実技参加を希望される場合は、参加の有無と氏名を必ず記入して下さい。
※締め切り7月13日(必着)

定員 各回 40名程度

※見学の大人は人数に含まない



(前回の様子)

日展会館利用案内

日展会館の貸しスペースは、ギャラリー・会議室・研究会場・講演会場・教室としてご利用いただけます。

美術団体・書道団体の展覧会や会議・セミナー・イベントをはじめ、個展でもご利用ください。

参加人数等に応じて、一室(三〇名)・二室(六〇名)・三室(九〇名)の選択が可能です。

料金等詳細はホームページをご覧ください。

※日展会員・準会員・会友の皆様は割引料金でご利用いただけます。

(施設利用に関するお問合わせ)
公益社団法人日展 施設管理係
電話 03(3821)0453



(ギャラリー利用例)



(会議・1室利用例)

日展会館貸しスペース面積・着席定員

貸しスペース	面積	着席定員
201号室	71㎡	30名
202号室	71㎡	30名
203号室	76㎡	30名
201+202号室	146㎡	60名
202+203号室	148㎡	60名
201+202+203号室	221㎡	90名

日展パートナーズについて

日展パートナーズは、公益事業活動を財政的にサポートいただく賛助制度（寄附制度）で、個人と法人・団体を単位として募集いたします。

（個人）

一口／年 二〇、〇〇〇円

（十口まで申し受けます）

（法人・団体）

一口／年 一〇〇、〇〇〇円

（十口まで申し受けます）

日展は、その前身である文部省美術展覧会（文展）の創設から今年一一六年を迎える伝統ある美術団体です。日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書と五部門からなる日本最大規模の「日本美術展覧会」には全国から多くの美術ファンのご鑑賞を頂いております。日展は展覧会事業の他に、美術に関する調査研究事業、美術に関する講演会及び講習会事業、美術鑑賞及び創作に関する体験講座事業、美術研究冊子及び図書刊行事業等を通じて、我が国美術文化の振興発展に寄与することを目的としています。

これらの諸事業を推進するには、多くの個人の皆様並びに法人・団体の皆様からの深いご理解とご支援をいただくことが欠かせません。

日展では平成二十九年より、日展の公益事業活動に賛同し、ご支援くださる方々を対象とした賛助会員制度「日展パートナーズ」を設け、運用いたしております。皆様方には、本趣旨にご賛同いただき、温かいご支援を賜りますよう「日展パートナーズ」へのご加入を心よりお待ちしております。

賛助会員制度《日展パートナーズ》

（掲載希望者のみ 令和5年5月末現在）

●個人

青木晃子様	東 晋一郎様
新井演子様	飯田真未様
石崎國夫様	井谷善恵様
井上道守様	今田功一様
今村忠司様	岩田 薫様
奥田節子様	角井 博様
梶山純子様	兼重勇希様
菊池和久様	草野曾舟様
栗原直子様	呉 祐輔様
黒田浩平様	児玉安司様
近藤慎男様	坂本美賀子様
佐川かおる様	佐藤大悟様
澤井和行様	高木寛史様
田頭明子様	田頭益美様
高橋千笑様	竹尾明子様
竹本葉子様	田中宏欣様
土橋正彦様	土屋礼央様
寺岡宏高様	寺田則昭様
中室里恵様	西田俊通様
西村潤帰様	西村友子様
野田裕一様	藤田理恵子様
藤本真之様	堀 稲子様
宮島幸男様	村里 暁様
森寫順子様	吉見次郎様

●法人・団体

株式会社 IDホールディングス様
医療法人社団 永寿会様
株式会社 大垣共立銀行様
株式会社 玉蘭堂様
謙慎書道会様
ゴールデン文具 株式会社様
株式会社 靖雅堂夏目美術店様
公益社団法人 創玄書道会様
株式会社 高山草月堂様
株式会社 筑波銀行様
T&Tパートナーズ法律事務所様
一般社団法人 東光会様
東洋額装 株式会社様
株式会社 西文明堂様
公益社団法人 日本書芸院様
ニューカラー写真印刷 株式会社様
株式会社 原汲古堂様
一般財団法人 ビオトピア財団様
福井素鳳堂様
有限会社 丸栄堂様
有限会社 みなせ筆本舗様
一般財団法人 桃園学園様
株式会社 谷中田美術様
菱三印刷 株式会社様
株式会社 リンクス様
株式会社 和光様

第 9 回 日 展 巡 回 展

開催順	開催地	会 期	会 場	開 催 者	入場者数(人)
	東 京	2022年11月4日～11月27日	国 立 新 美 術 館	公益社団法人 日 展	77,134
1	京 都	12月24日～ 2023年 1月20日	京都市京セラ美術館	日展京都展実行委員会	22,610
2	名古屋	1月25日～2月12日	愛知県美術館ギャラリー	中 部 日 展 会	24,737
3	神 戸	2月18日～3月26日	神戸ゆかりの美術館 神戸ファッション美術館	神 戸 市 展 会 公益社団法人 日 展 神 戸 新 聞 社	44,507
4	富 山	4月21日～5月7日	富山県民会館美術館	北 日 本 新 聞 社	14,285

叙 勲

令和五年四月

旭日小綬章
樽本 樹邨 (日展会員)

旭日双光章
高橋 貞夫 (日展会員)

日展出版物・バックナンバー
割引販売のご案内

日展図録 (5部門・5分冊)
割引価格 各一、〇〇〇円(税込)

日展作品集
割引価格 一、〇〇〇円(税込)

※送料 一冊六〇〇円

※バックナンバーにつきましては、
在庫が僅少の回もございますの
で、お問い合わせください。

(問い合わせ先)

〒110-0002 東京都台東区上野桜木2-4-1
公益社団法人日展事務局 出版物係
TEL 03(38221)9543
FAX 03(38223)0453

表紙
「沼」

一九八八年 (昭和六十二年)

第二十回日展

日展会員賞

165×210 cm

岩倉 寿

(一九三六～二〇一八)

香川県立ミュージアム蔵

左の先生方が逝去されました。
謹んで哀悼の意を表します。

木村 卓央先生 (巨画・画) 5・1・27

横山 善一先生 (工芸・画) 5・2・16

今井 政之先生 (工芸・画) 5・3・6

(日本芸術院会員)

九十二歳。昭和五年
大阪府生まれ。昭和
二十八年第九回日展
初入選。同四十二年日展会員、同
五十二年日展評議員、平成十年日
展理事、同十五年日本芸術院会
員、同十六年日展常務理事、同二
十一年旭日中綬章受章、同二十三
年日展顧問、文化功労者、同三十
年文化勲章受章。昭和四十年第八
回日展審査員 (以降合計七回)。



岡田 契雪先生 (書・会員) 5・3・22
一色 白泉先生 (書・会員) 5・6・7

編 集 後 記

新型コロナウイルス感染症が五
類に移行となり、行動制限が緩和
され、何気ない普段通りの社会生
活がいかに大切か身をもって感じ
ております。

今号には総会報告、新人事、新
しく会員になられた方からの抱負
のお声、そして各地で制作活動を
続ける方々からの、日展出品への
熱い思いを語って頂きました。

また「作家人生―私の仕事―」
として、お二人の理事からの貴重
なお話を紹介しております。

「教えて作家さん」は前号の小
中学生中心から、今回は高校生と
作家とのお手紙のやりとりを掲載
しました。

秋の展覧会に向けて、皆様方も
奮起していらつしやると存じませ
うが、くれぐれも健康にご留意の
上、日展をさらに発展させていた
だきますよう祈念いたします。

(野原)

編集委員

亀山 祐介 西田 真人
浅見 文紀 前原 喜好
野原 昌代 堀内 秀雄
上原 利丸 村田 好謙
歳森 芳樹 福光 幽石